

# ハセツネCUP応援記

【山域】 奥多摩

【日時】 2018年10月7日～8日

【参加者】 アッコ 応援:ランナー、えばけん、おまけサテライト(記録)

## 【報告】

日本山岳耐久レース長谷川恒夫カップ(通称ハセツネCUP)とは、一般人が歩くと5日半かかる71.5kmの山道(累積標高差 4582m)を、24時間以内に走破する国際的にも最も過酷なトレランレースの一つで、毎年奥多摩で開催されます。

今年で26回目。トレランナーにとって、特別な憧れのレースです。

トレラン部の紅一点、アッコちゃんの応援に同行させていただきました。

朝6時 船橋駅集合。

ランナーの車で現地入りします。

武蔵五日市は、午前中にヒルクライム(自転車)の大会もあって大変な賑いでした。

駅前で駐車し、スタート地点へ向かいます。



アッコちゃん、エントリー中

道中には、ピンクベストの大会ボランティアさんが笑顔で立っています。

10月とは思えない炎天下の中、ほんとお疲れ様です。

協賛企業の出店ブースを見学した後は、コンビニ(イトイン)で応援の作戦会議。

戻って、出走前のアッコちゃんと記念撮影です

午後1時、レース開始。

武蔵五日市中学前の沿道にスタンバった我々は、反対側を疾走したアッコちゃんのお見送りに失敗します。

しょんぼりしつつ、檜原温泉センター「数馬の湯」で昼食・仮眠を摂って夕方から徒歩で移動を開始。

明るいうちに到着した数馬峠には誰もおらず、絶好の応援ポイントです。

この時間帯にやってくる選手は、かなり上位の方達ですね。

「頑張ってくださいーい！」自然に大きな声が出ます。

陽が落ちた後は、次々とやって来る選手に大会ボランティアと間違えられます。

質問されるたびに調べて答える我々は、どんどんコースに詳しくなって、

「ここは西原ですか？」「まだ数馬です」

「どのくらいかかります？」「多分、30分から40分です」

「次の水の補給はどのくらい先ですか？」「かなり先になります」

「ここでギブできますか？」

「降りることは可能ですが、正式なリタイアポイントではないみたいです」



いっちょ前のお返事してました(笑)

そして、3時間後。

待望のアッコちゃんが、笑顔で飛び込んできたのです。

「体調、大丈夫？」「うん。」

「お水、ある？」「うん。」

「頑張っ！」「うん！」

お見送り後は駅前の「裏山ベース」に向かいます。

ここ裏山ベースには、ハセツネCUPを早めにリタイアした選手が次々とやってきて、シャワーを浴び、ビールで乾杯してました。

我々もシャワーを頂き、軽く飲んで食べて、車で再び仮眠を取ります。

翌朝7時。

ハセツネは3つの関門が設けられ、選手の通過時刻をネット配信してくれます。

7時に更新される第3関門の通過時間を知りたい我々ですが、回線が混雑しているのか繋がりません。

アッコちゃんの到着を待ちつつ、代わる代わるゴール地点前のテント内に張り紙が出されてないか、チェックしに向かいます。

そして、えばけんが初めてチェックしにゴール前を離れた、その時。

見覚えのある黄色いTシャツが…。

「アッコちゃん、お帰りいいー！！」

感動した私は、涙、涙。 何の努力もしてない、お前が先に泣くなよなあ。

ちば山一持ってない男、えばけんが戻ってから皆で記念撮影したのです。



今回、初めての応援で色々と不手際ありましたが、お作法は会得しました。  
来年以降の再挑戦、他トレラン部員の初参戦、どちらの応援もお任せ下さい。  
ただのオマケでしたが、貴重な体験でした。ありがとうございました。  
アッコちゃん、完走 本当におめでとうございました！



# 激走

